

二世代先の川口を見据える いかり康雄の活動

※取り組みの詳細は、裏面を参照願います。



いかり

市議会議員としての2期目、4年間で見た川口市政の現状と課題について報告いたします。最も大きな変化は「この4年間で市政は極めて雑になった」ということです。正義がない「いじめ裁判」の継続と敗訴、人口減少を現実を踏まえない長期ビジョンの作成など、詳細は本文を参照してください。

このリーフレットは、新しく開発された音声化プラットフォーム「VOXX (ヴォックス)」で読み上げ可能です。QRコードをスマホのカメラで読み、表示されたリンクをタップすると、音声再生されます。音声の速度や種類が自由に変更です。



音声再生

視点1 議会改革

市政をチェック出来ない議会

数少ない「もの言う議員」であることを意識して積極的に発言しています

課題への取組

いじめ問題 市は連続敗訴。

市議会で初めて取り上げ、問題点を指摘。

委員会審議 これまでの「自由な発言の場」から「会派持ち時間制」へ

議会のチェック機能が大きく損なわれました。

議員には一日五千円のお手当は不要です。

廃止を求めました。しかし巨大な抵抗勢力があります。

視点2 政策形成

本当に市民に必要な政策なのか

市民には、事業が決まってから知らされる「思いつき」のような政策決定でよいのでしょうか

課題への取組

美術館建設

建設計画が変更になるという失態 建設費の増加が不可避となっています

第2のパスポートセンター設置

これでは街のにぎわいにつながりません。利用件数 1日170件

温暖化対策

現在の実行計画は既存の事業をリスト化しただけ。これでは温暖化ガスは減りません。

視点3 地域間格差

川口駅周辺に片寄った税金投入

市内に人が集まり「賑わい」がある地域と人が集まらず「さびれる」地域の二極化が進んでしまっています

課題への取組

中距離列車停車問題

十分な調査もせず約300億円とも言われる事業を推進

再開発の再考を求める

受益者が一部の事業に多額の税金を投入

地区ごとの計画づくりを求める

地域ごとに課題に取り組むために地域計画を